

AVMA2023 参加レポート

2023 年 8 月 2 日

獣医師 8 年目 滝沢 玲

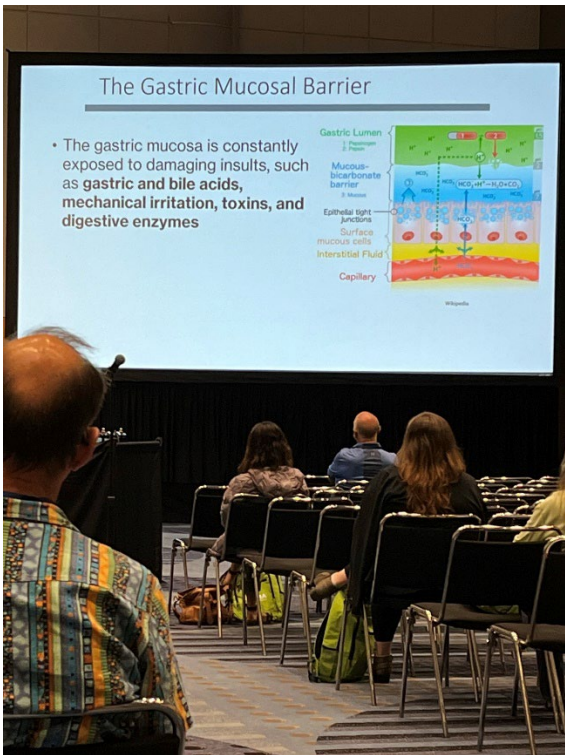
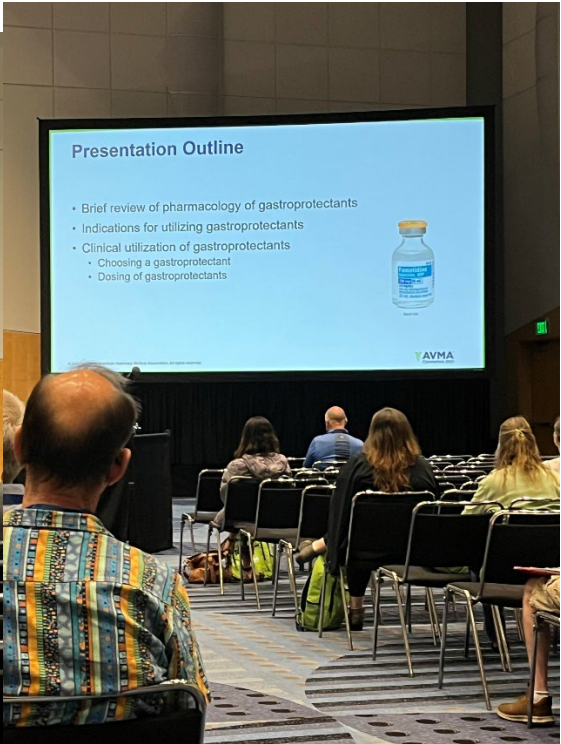
【AVMA とは】

American Veterinary Medical Association（アメリカ獣医師会）の略称で、毎年1年に1回で6月～7月に年次大会が米国で行われています。今回は7月20日から7月25日にコロラド州デンバーで行われた年次大会に参加させていただいたためレポートという形で報告させていただきます。

【会場】

コロラド州デンバーのコロラドコンベンションセンターで行われました。講義室は計30部屋あり、同時進行で様々な講義が行われていました。

以下会場の様子です。



【受講した講義一覧】

- Glaucoma in dogs and Cats
- A diagnostic approach to a common complaint : the coughing dog
- Most common feline emergencies
- Advances in veterinary dermatology
- Can we impact veterinary chronic pain with ketamine?
- Essential feline diabetes management: What's new in2023?
- Uncomplicating canine mast cell tumor
- Update on canine degenerative mitral valve
- Cardiac emergencies
- Liver alone Cholangitis/cholangiohepatitis
- Canine lymphoma
- Common canine genetic diseases
- Gastroprotectants in dogs and cats
- CPR for the anesthetized patient
- Patient with collapse
- Surgery of the stomach and pylorus

- New: Canine anaphylactic hemoperitoneum
- Secondary immunosuppressants
- 10 recent advances in veterinary oncology
- Feline neurologic disease
- Seizure management
- Prostate disorders in dogs
- Myethenia gravis in dogs and cats
- Masticary myositis
- Treatment of neurogenic bladders
- Dealing with skin infections
- Feline injection-site sarcomas
- Down for the count? Care of the down dog
- Caesarean resection
- Managing hypoalbuminemia
- Fluids and transfusions-feline
- Video capsule endoscopy in dogs
- Uveitis

今回上記の講義に参加させていただき、数多くのことを学ばせていただきました。その中でも特に感じたのはアメリカの獣医学はよくある症状から疾患を系統立てて分析し効率よく診断をつけているということでした。例えば、咳というよく遭遇する主訴に関する講義では、鑑別診断トップ 10 を挙げ、それぞれを除外する検査を挙げ、だからこその検査をやれば可能性の高いすべての疾患を除外できるという内容でした。これは当院でも積極的に行われている思考法ですが、人材育成という観点でもまず基礎としてよくある症状に関する鑑別疾患リスト、疾患に対応する検査をまとめておき、それを基に指導すると良いのではないかと考える、いいきっかけになりました。

また、猫の 2 型糖尿病で使用できる SGLT2 阻害薬やリンパ腫に対する抗がん剤など多くの新薬の講義も受け、今まで救えなかった患者さんがこれから救えるようになる可能性を大いに感じ期待が膨らみました。これらの新しい知見に関しては今後院内セミナーとしてフィードバックをさせていただきます。

【展示会場】

展示会場にはペットフード会社や、医療機器メーカー、書籍販売、保険会社、電子カルテ会社など様々な会社が展示を行っており、活気に満ち溢れていました。私は IDEXX の企業ブースで尿沈査の分析を機械で行えるセイディービューの説明を受けました。尚、この機械は当院で先日導入予定されました。また、AAHA のブースで担当の方に日本で最初の AAHA 認定病院ですと声を掛けると、ダクター！と尋ねられ、当院のアメリカにおける認知度を認識しました。またその際に AAHA Accredited(AAHA 認定)と書かれた ID を頂き、その ID をつけて会場を回りました (下記写真)。





【名刺交換した講師一覧】

フロリダ大学 Adesola Odunayo (Clinical Associate Professor)

オハイオ州立大学 Turi Aarens (Associate Professor)

イリノイ大学 Jennifer M. Reinhart (Assistant Professor)

コロラド州立大学 Douglas Thamm (Professor)

ミシシッピ州立大学 Michaela Beasley (Associate Clinical
Professor)

コロラド州立大学 Dr. Sue VandeWoude (Dean)



(Dr. Sue VandeWoude と)

【総括】

今回4年ぶりにアメリカの学会に参加させていただきました。日本には入ってきていない薬や治療法などが多数あり、まだまだアメリカが獣医学をリードしていることを実感しました。今後は日本の獣医療も追いつき追い越せるよう、学び続けていく必要があると感じています。当院は二月にエリック・モネ先生を招待しセミナーを開催していますが、CSUをはじめとしたさまざまなアメリカ獣医科大学と連携を取りつつ、さらに機会を増やしていく必要があると思っております。

最後になりますが、加藤院長、松沼さん、野内先生、小島さんをはじめ、今回の学会の手配をしてくださった中尾さん、田村さん、不在の間病院を運営し診療をしてくださった全スタッフに感謝を申し上げます。